

令和4年度 学童クラブ事業年間活動報告書

京都市修徳児童館

	活動の基本目標（指針）	主な取組名	成果と課題
	<p>安全・衛生の確保</p> <p>健康の管理・情緒の安定</p> <p>基本的生活習慣の確立</p> <p>社会生活技術の獲得</p>	<p>5時帰り 交通安全の取組</p> <p>手洗い消毒の励行（石鹸 消毒液の使用） 感染症予防・感染症対策 新型コロナウイルス感染症対策として あいさつ運動</p> <p>グループ活動</p> <p>物の管理・取扱いについて</p> <p>地域の公園の利用について</p> <p>時間の使い方の選択・決定と後片づけの励行</p> <p>多彩な子どもたちとの遊びを通じて関わり</p> <p>高学年のおそうじ隊</p> <p>館外活動</p>	<p>公道では安全に歩き、帰宅するようにと指導している。帰路でふざける子がいるため、安全に帰るよう保護者の理解と協力が必要なため、保護者への連絡・相談をした。親子で学校から児童館へのルートと自宅への帰宅ルートを歩いて練習することをお願いした。</p> <p>帰宅する人数が少人数のため、グループをつくりにくい状態にある。個人で帰宅する力をつけていくための働きかけが要。今年度は交通安全教室を実施し、実際に児童館から自宅へ帰る5時帰りの2つのコースを、下京警察署の交通課の方と一緒に歩いてもらい、気を付けるポイントの指導をしてもらった。保護者にも3日間期間を決めて、見守りをお願いした。少人数ではあるが家に近くに出てもらえて協力してもらえた。</p> <p>子どもたちの中で習慣化していくよう、帰ってきたら声掛けをするよう大人スタッフも意識をする 子どもたちに自分の体を自分で守るという意識を育てると共に、感染症拡大防止への取り組みを身に付けさせていく。 手洗い消毒を促した。また児童館内の消毒作業を子どもたちと一緒にすることで、意識啓発にもつながった。 帰館時の挨拶（ただいま。～します。）はおおむねできるようになったが、丁寧な行動とあいさつの意味合いを考えさせるようにしたい。</p> <p>長期休暇中に、せんだんホールをお借りして、30人規模でみんなあそびを実施した。高学年が低学年の子ども達をうまくまとめて、みんなで楽しく過ごすために、あそびを企画したり、片付け作業なども頑張ってくれた。 放課後は時間が少ないため、グループ活動を継続的に実施するのに工夫が必要に感じる 暫定的に個人ロッカーが一人一つづつ確保されていない状態ではあるものの、荷物やもちもの紛失・忘れ物が多い。 公共のものを大事に扱うということを教えていきたい。 地域の公園であそぶ時に、地域の乳幼児親子から大人までが気持ちよく集えることを考えられるように話し合いを重ねた。 あそびで場所を区切ったり、ボールの使用で公園の木々を傷つけることがないように今後も子ども達に考える機会を持ちたい。</p> <p>放課後の時間の使い方を自ら決め、後片付けに取り組むことを大事にした。今後も継続を図る。 子どもたちの現状・実情に合わせて、自分で考えて行動できるように、ある程度の道筋やルールを確定させていく必要がある。 1日の流れをホワイトボードに示して、視覚的にわかりやすくした。小さなホワイトボードも多用して、次の予定等を細かく示して、子ども達が次の行動への見通しを持ちやすくした。</p> <p>仲良しの子が学童を欠席すると、遊ぶ相手が居ないと大人のところにやってくる子どもたちがいる。 あそびの中で新しい友達関係を育んでいく時間と場所、大人がうまくサポートできるようにする。 そのために、子どもたちの状況の分析・働きかけの方針を決めて、運営をしていく。</p> <p>夕方時間を決めて高学年の数人で地域のゴミ拾いを自らしてくれた。 自分達が地域のために役に立っているという満足感と自信につながっている。</p> <p>感染症拡大防止という社会情勢の中、積極的に館外に出掛けていくという場面が足りなかった。 できる形で地域住民等とのかかわりをつくっていききたい。 自然体験の機会をつくっていききたい。</p>
	<p>生活体験の拡大</p> <p>社会性の養成</p> <p>自立の促進と自主性の尊重</p>	<p>併設老人ホームやデイサービスとのふれあい交流</p> <p>らんらんランチ</p> <p>他館との交流事業</p> <p>にじいろマルシェスペシャル</p> <p>遊びの選択・決定と後片づけの励行 生活スケジュール</p> <p>バースデー乾杯！</p>	<p>3月の防災マルシェで老人ホームの利用者さん達にも参加してもらえて、一緒にAED体験をして良い刺激を受けることができた。 異世代の交流があることで、存在を認められる機会になると思う。できる形で交流の機会をつくっていったらよい。</p> <p>食の生活体験を増やすために、土曜日にお昼ごはんの買い物一度実施した。スーパーでの買い物を体験したことで、欲しいものの選び方、買い物に必要な計算などを体験できた。普段の生活で経験ができない児童のためにこれからも継続していききたい。</p> <p>京都やんちゃフェスタがオンライン上で動画の配信という形で行われた。動画を通じて、遊び方や過ごし方の参考にできた。下京区の4館でオム交流会が実施できた。1年生から5年生までの児童と一緒に出かけすることができ、他館の児童とも交流することができた。このような経験が子どもの成長に大切であることが実感できた。</p> <p>成徳学舎にて実施した。 普段かかわりの少ない年齢・年代の人が一緒にいる空間をつくったことで、どのようにふるまったらよいかを考える機会になったと感じている。</p> <p>自らが決め、遊び、後片付けに取り組むことを大事にした。今後も継続を図る。 大まかなスケジュールを表示して、子どもたちに考えるきっかけを作った。 土曜日など利用者が少人数の時は、どの部屋で遊ぶかなど、「自分たちで決める」という時間をつくった。</p> <p>誕生日のお祝いをした。感染症拡大防止で1回しか実施できなかったが、みんなの前でお祝いをして、好きなものをインタビュー</p>

	<p>進級おめでとうデー</p> <p>グループ会議</p> <p>3年生・4年生・5年生企画</p> <p>6年生卒業おめでとう会</p>	<p>してもらえることで喜びと満足感を味わっていた。乾杯のジュースを近くのスーパーまで買いに出掛けたりもした。パスデー乾杯が全員に実施できなかったのが、3月末に全員に向けてスペシャルおやつでお祝いをした。学童クラブ全員で春休みに実施することで連帯感が感じられた。</p> <p>学年で分けたグループで長期休み等はグループワークを実施した。 子どもたちの中で目標が生まれたり、ルールをつくりその中での責任を考える機会になった。 メンバーを固定せず、少人数でグループを作り、ミーティング形式でグループワークを実施していきたい ルールづくり、自分たちで守る、ルールを変更するなど展開を見守るようにした</p> <p>自分達の”やりたい”を実現していくために会議を重ねて、企画・準備を頑張った。各学年、仲間意識が強まり、絆が強まる良い機会となった。 6年生親子の卒業お祝いに集ってもらった。1年生の頃の写真を上映したり、保護者から卒業生に一言話してもらった。中高生になってからの児童館利用につなげるための機会となった。</p>
<p>子育て支援機能</p> <p>子育てに必要な情報の提供と交換</p> <p>子育ての仲間づくり</p> <p>子育てを支えるネットワーク形成</p>	<p>学童クラブだよりの発刊（毎月）</p> <p>学童クラブ保護者懇談会の実施</p> <p>セコムメールによる情報発信</p> <p>連絡帳の有効活用（毎日）</p> <p>保護者懇談会</p> <p>プロジェクトチーム結成</p> <p>子ども支援センター・学校等とのケース会議や 日常の相談</p>	<p>子どもたちの様子を伝えることに重点を置き、写真を多用して作成。 行事の報告だけでなく、日ごろの様子を写真に収め、紙面に並べて発行した。 感染症に気を付けながら、懇談会を実施。子どもたちの様子を伝えるとともに保護者同士の交流を図った。 これまでのやり方にとらわれず、時代や社会の様子に合った方法を検討していきたい。（リモート保護者会など）</p> <p>学童からの連絡が確実に保護者に伝わり、書類などの提出がスムーズになった。</p> <p>出欠連絡などの連絡ツールとして役立っている。また、保護者の悩みや思いを聞き取り、職員とのやり取りの方法として活用された。 感染症を予防するという観点から、大勢の利用を控えるような工夫をしていく。 子どもの困りごとを相談する相手が、保護者の間で身近に作りやすくなったように感じる。 児童館を知ってもらう。学童クラブを利用している子どもの保護者同士の仲間づくりを応援するという意図で計画をしていたが、感染症拡大防止の観点から今年度実施は見合わせた。</p> <p>個別ケースについて地域の諸機関と連携、相談。</p>